

牛の個体識別耳標の脱落について

家畜改良事業団家畜個体識別センター

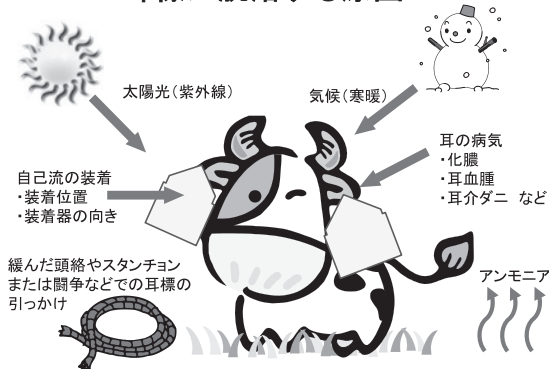
牛の個体識別番号は、一頭一頭すべて異なる番号が耳標に印字されています。同じ番号の耳標は存在しません。ところが、昨年6月15日に、ある県のと畜場で処理された牛の個体識別番号が他の牛と重複してしまいました。原因は、耳標が両耳とも脱落した牛に、十分な確認を行わないまま再発行耳標を装着したという管理者のミスによるものでした。些細なケアレスミスなのかも知れませんが、こういった事態は消費者の信頼を大きく損なうもので絶対に起こしてはいけなものです。今回は、何故こういったミスが発生してしまったか、という点を掘り下げ、ミスを起こさないためにはどうすれば良いか、基本に立ち返って検証したいと思います。

1 耳標の脱落

まず、最初にこういった事態を招かないための最大のポイントを記しておきます。この管理者の最大のミスは「耳標の両耳脱落」にあります。耳標を両耳に装着するように義務づけられているのは、片耳が脱落した段階で直ぐに再発行された耳標を再装着するためです。正確に装着された耳標であれば、両耳同時に脱落することはありません。耳標は片耳でも脱落したら直ぐに再発行を申請し再装着するのが鉄則です。

では、何故、耳標が脱落してしまったのでしょうか？そもそも耳標が脱落しなければ、こういった事態は発生しないわけです。絶対に耳標が脱落しないという方法はありませんが、脱落の原因を知り出来る限りの対処をとることもミスを防止するために重要です。耳標が脱落してしまう主な原因は図1の通りですが、大きく次の4つに分類されます。

図1 耳標が脱落する原因



耳標脱落の原因① 自己流の耳標装着

耳標の装着方法が自己流になっていませんか？耳標が脱落する要因の大半は「自己流装着」にあります。装着器は耳介（または耳殻という）の下方から挟んでいますか？下方から挟んでいなければ、耳標を正しい位置に装着できません。正しい位置に装着しなければ耳標を引っかけて脱落させてしまいます。また、消毒が不十分であれば、化膿の原因となり、結果として耳標を外して治療することになります。まさに正しい装着が脱落しない耳標の第一歩です。正しい耳標の装着方法については、後述します。

耳標脱落の原因② 耳標を引っ掛けやすい環境

耳標を引っかけてしまって脱落させてしまう事例も多く発生しています。その主なものは、スタンションや頭絡等による保定に見られます。いずれも緩めになっていると、牛が無理に頭を抜こうとして、耳の裏の耳標（雄タッグ 図2）を引っかけてしまいます。耳標が壊れて脱落したり、逆に耳が切れて脱落することもあります。これらは、いずれも耳介の正しい位置に耳標を装着していない場合に多く発生します。

また、群飼の場合に、牛同士の闘争により脱落することもあります。闘争行為は飼育密度が高い場合や、飼槽スペースが足りない場合に多く発生します。

耳標脱落の原因③ 耳の病気

前述したとおり耳標の装着時の消毒には十分に気をつけましょう。装着時に化膿せずに済んだとしても、その後に耳標を引っかけてしまえば、耳標が外れずとも装着部の耳介を大きく傷つけ、そこから化膿することもあります。その他にも、耳介ダニや耳血腫といっ

た病気も発生します。これらの耳の病気は、切れた耳を縫合する、毛を剃るなど治療のために獣医師の判断で耳標が外されることがあります。これらは脱落とは異なりますが、耳標の再装着が必要となる意味では違いはありません。**病気を発生させないよう耳標の引っかけ防止、ダニ等の駆除**を行います。

耳標脱落の原因④ 耳標の経年劣化

耳標は、熱可塑性ポリウレタン樹脂というゴムのようなしなやかさをもつプラスチックの一種で作られており、耐久性にも優れた素材です。しかし、太陽光（紫外線）、アンモニアガス、気候の寒暖等といった条件が揃うと耳標の劣化は著しく進みます。これを畜産に置き換えれば、放牧による太陽光、密飼いと換気不足による糞尿からのアンモニアガス、これらに加え、寒暖の差が大きい牛舎といった条件になります。劣化した耳標は、引っかけが発生してしまうと、簡単に耳標が壊れ脱落します。

古くなった耳標は触ってみると硬くなっており欠けたりヒビが入ったりしていることもあります。印字されている番号も薄くなっており読み取りづらいものとなっていることもあります。こういった耳標は再発行により、新しい耳標に交換して良いこととなっていますので、早めに交換します。

2 正しい耳標の装着方法

ここまで紹介しましたとおり、耳標を脱落させないためには、まずは正しく耳標を装着することです。ここでは正しい耳標装着方法を再確認して下さい。なお、送付されてくる耳標に同封されている各社の装着マニュアルに準拠して下さい。

(1) 耳標の装着時期は？

耳標の装着は、**出生後1週間以内**と決められています。出生後に速やかに出生報告と耳標の装着を行うことが大切です。同時期に複数頭数が生まれたときなど、耳標装着を後回しとしてしまうと、複数頭数の子牛の見分けが付かなくなり、母牛や生年月日の誤った報告につながります。

(2) 装着する耳標を準備する

耳標は、図2のように雄タグと雌タグで一对です。出生の際の耳標は両耳装着ですから、二対の耳標なので、雄タグ2枚、雌タグ2枚の合計4枚となります。**4枚とも同じ番号**であることを必ず確認してください。

(3) 装着器を準備する（補足1参照）

耳標には、取扱業者によりいろいろな種類がありま

図2 耳標 *Check!* 4枚の耳標の番号を確認しましょう！



す。毎年度当初に行う入札により業者が決定しますので、年度により耳標の種類が変わることもあります。こうした場合は、農家の耳標在庫が一時的には2種類以上となることもあります。図3に耳標の種類と装着器の関係をまとめましたので、**必ず図3に従った装着器を使う**ようにします。

図3に掲載されていない古い耳標や装着器については、当団ホームページを参照してください。

「個体識別技術情報」で検索

<http://liaj.lin.gr.jp/japanese/kentei/ID/id-info.html>

図3のように雄タグと雌タグの耳標を装着器に

図3



Check! 装着器と耳標の組み合わせを確認しましょう！

図4

耳標装着



ハブトナー耳標を装着する場合は、耳標が耳の外側に向くようにアプリケーションに対して直角にセットします。(写真は左耳の例)

セットします。耳標と装着器の角度は、耳標の種類により異なる場合がありますので、注意してください。

(4) 消毒液を準備する

消毒液には、必ず所定の濃度になるように希釈して利用します。作りおきは、薬効が低下するので厳禁です。図5のように消毒液はバケツ等で準備し、耳標をセットした装着器ごと浸漬して利用します。スプレーや脱脂綿等による消毒液での拭き取りでは消毒は不十分です。また、連続して複数の子牛に耳標を装着する際に血液や肉片がついた場合は、流水等で取り除き気をよく拭き取ってから再度消毒液に浸漬します。

(補足2参照)

図5 耳標・装着器の消毒



Check!
しっかり
と消毒薬に
浸漬

(5) 耳標を装着する位置

脱落しないためには、最も重要なポイントです。図6のように耳介の血管をさけ中央奥に装着します。大きな番号が印字されている雌タッグの耳標が前方になるよう、必ず耳の裏から雄タッグを刺し通します。装着器は必ず耳介の下方から挟んで^(※)、カチと手応えがある適度な力で挟み込みます。(図7) 極端に力を入れすぎると、雄タッグが雌タッグの耳標を壊して突き通ってしまい耳標脱落の要因となります。装着した耳標を軽く回して正しい位置に直し、雄タッグと雌タッグがきちんとはまっているか確認します。また、図8のように耳標を誤った位置に刺し通すと、耳切れなどにより耳標を脱落させる大きな要因となります。

(補足3参照) (※) 上方や側方から挟むと、耳介が邪魔になり十分に挟み込めません。

(補足1) 肉用肥育農家

肥育農家であっても、脱落耳標の再発行を受けて耳標装着を行う必要があります。肥育農家も装着器を準備する必要があります。

(補足2) 牛白血病等の血液を媒介する病気の予防

図6 装着ポイント

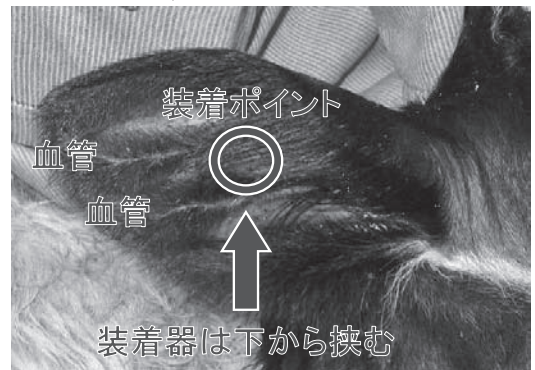


図7 耳標装着(オールフレックス社)



Check!
装着器は下から挟みます!

図8 誤った装着ポイント



図9 正しい位置に装着された耳標



牛白血病はサシバエによる感染がよく知られていますが、分娩時の親子間で垂直感染もひとつの感染経路です。子牛であっても感染している場合がありますので、血液や肉片が付着した装着器は絶対に使用しないでください。

(補足3) 耳標の装着

耳標装着の際に牛が頭を強く振ると、耳を切ってしまうことがあります。神経質な子牛はしっかり保定するといいいでしょう。また、事前に耳介に穴をあけ、そこに耳標を装着する方法は、やはり牛が動くのでうまくいきません。今回紹介した基本に則して、耳標装着してください。

3 耳標を脱落させてしまったら…

(1) 近日中に出荷予定（異動予定）の牛

今回紹介したように注意深く耳標を装着し、その後も適切な管理をしたとしても、耳標が外れてしまうという事故は発生します。牛トレサ法（牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法）では、耳標が脱落した牛の譲り渡しまたは譲り受け等を行うことは禁止されています。しかし、今回紹介したような以下のケースについては、外れた耳標をひも等で当該牛の頸にくくりつけたり、ボディに個体識別番号を直接ペイントするといった必要な処置をとれば、譲り渡しまたは譲り受け等を行うことが認められています。

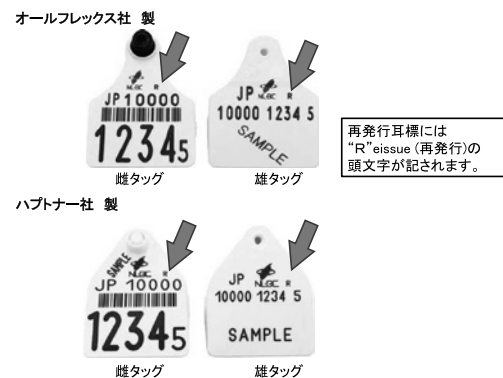
牛の譲り渡しまたは譲り受け等を行っても良い耳標脱落の事例

- ①牛が耳の疾患にかかっているとき
- ②牛の耳に外傷があるとき
- ③耳標の劣化等により個体識別番号の判読が困難となった耳標の取替えを行う必要があるとき
- ④出荷直前または輸送中に耳標が脱落したとき

(2) 当面、異動予定のない牛

耳標の再発行申請は以下の方法で申請してください。2～3週間でお手元に到着します。耳標が到着しましたら、前述「2正しい耳標の装着方法」に準拠して、再発行された耳標を装着してください。なお、再発行された耳標には、図10のとおりNLBCと印字された部位の横に「R」と印字されます。

図10 再発行耳標



耳標の再発行の申請

- ・ 届け出Webシステム
<https://www.id.nlbc.go.jp/>
表示される画面からパソコンを使って再発行申請できます。
- ・ 電話音声応答システム
(186) 0037-80-1777 または (186) 0248-48-0594
電話音声に従って再発行申請できます。
- ・ イントラ報告（ID連携）システム、LOシステム
農協、家畜市場、と畜場、大規模農家等で利用できるソフトから再発行申請できます。
- ・ その他の再発行申請方法もあります。
詳しくは、以下にお問い合わせください。
独立行政法人家畜改良センター 個体識別部 T0248-48-0596

耳標の装着方法など、本記事一般に関しては、以下にお問い合わせください。

一般社団法人家畜改良事業団家畜個体識別センター
T0248-48-0592 F0248-48-0586